

活動報告（2023年1月～3月）

G7関連

- NGO労働協働フォーラム G7保健課題勉強会（1月25日）
- GIIとグローバルヘルスタスクフォースとの対話（2月2日）

「Resilient UHC に含まれる結核を含む三大感染症等の今ある緊急課題への対応」について以下のように提言した【資料 2-1】

2023年G20の保健重要課題の1つが「結核」であることを考慮し、また、「UHCの新たなモメンタムと概念は、2023年に開催されるUHC、PPR及び結核に関する国連総会ハイレベル会合の基礎として機能すべき」と明言する岸田文雄内閣総理大臣のランセット誌寄稿文を踏まえ、2023年に日本が議長国を務めるG7の保健重点課題においては、「結核」をキーワードの1つとしてハイライトし、同時にG7が支援する弾力性のある(resilient)UHC達成に向けた新しいロードマップ等の中で、結核対策が効果的に機能するようにする。

→ ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会(2月22日開催)においても、同様の提言をし、G7保健分野の政治宣言において、AMRの文脈で結核を記載することが、武見会長により外務省へ指示された。

GHIT ファンドの新5ヶ年戦略(2023-27年)の増資

- GHIFファンド(國井先生)との打ち合わせ(2月9日)

下記の提言を、「結核議連の申し入れ」に追記し、結核議連総会、後の手交にて提言をする。

提言内容

「広島G7サミットにおいて政府から2億米ドルの誓約発表を行う。GHITの意思決定や組織運営、新戦略の実施、特に研究開発の加速化と新薬の迅速なアクセスに対して、日本の官産学民の関係者がより積極的に関わることができるよう、政府一体となり一層の支援を行うこと」

→ ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会(2月22日開催)において、國井先生より増資要望を行い、財務省とも協議ししっかり対応することが約束された。

ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会【資料 2-2】

2月22日 11:30～12:30 参議院会館B109号室

出席者

議員 本人	武見敬三(会長)、秋野公造(事務局長)
代理	古川俊治、逢坂誠二、亀岡偉民、棚橋泰文、藤井比早之、御法川信英、柳本顕、吉田統彦
厚生労働省	江浪武志 結核感染症課 課長 杉原 淳 結核感染症課 エイズ対策推進室長 鈴木貴士 大臣官房国際課 国際保健管理官 青木史子 大臣官房厚生科学課 課長補佐
外務省	江副 聡 国際協力局 地球規模課題審議官組織 国際保健戦略官
JICA	小野 智子 人間開発部保健第一グループ
JATA	尾身 茂 理事長、石川信克 顧問

STBJ 森 亨 代表理事、JATAR/RIT 名誉所長、宮本彩子 事務局次長
GHIT ファンド 國井 修 専務理事・CEO、関 一恵 渉外責任者、堀内 聡 渉外担当

➤ 挨拶・役員人事について

→武見会長より、ストップ結核ジャパンアクションプランが 2021 年に改定され、秋野議員を新事務局長に迎えて、引き続き議連として結核をサポートしていくことが述べられた。

➤ 「結核関連予算」について(厚生労働省、外務省よりヒアリング)

→武見会長より、R5年度結核対策関連予算案について、結核患者入院医療費 28 億 7800 万(前年度当初予算 29 億 2600 万)、結核患者通院医療費 3 億 3300 万(3 億 4900 万)と減額している理由について質問があり、結核感染症課より入院医療費、通院医療費ともに実績であり、患者が減った分が減額されていると回答があった。

→武見会長より「国際機関等の結核関連事業の支援」の予算金額について確認があり、GFIについては、岸田総理より 10.8 億ドルのプレッジ(2023-2025)があったところ、今年度分として 112 億円。

GDFについては、R5 当初予算として 1.1 億円。

GHITについては、R5 年から R9 年度 3 期のプレッジはまだなされていない。予算は厚労省:外務省で、1:1 で連携。(厚労省)R4年度補正 21 億 6000 万、(外務省)R4補正 18 億、R5年度当初 3 億 8000 万。外務省合計 21 億 8000 万。これは単年度最大規模。官民で合計 400 億円の増資を目標としており今後第 3 期プレッジに向けて努力する。(GHIT からの要望では政府から 2 億米ドル)

➤ 結核と重点感染症について(厚生労働省よりヒアリング)

→秋野事務局長より、結核が重要感染症に入っていないのではないかと問いがあり、厚労省より、多剤耐結核菌・超多剤耐性結核菌は、「重点感染症の暫定リスト」のうちグループ C(薬剤耐性AMR)に該当し、AMR研究開発優先課題リストに該当することが説明された。

➤ 「申し入れ」について

→ 森 代表理事により「申し入れ」背景として日本と結核の結核問題について説明、GHIT ファンド國井により第 3 期(2023 年~2027 年)の必要資金について説明を頂いた。

尾身結核予防会理事長より、特に人材の養成(開発、危機管理)、人材への投資の重要性、そして(日本の技術普及)戦略的なマーケティング必要性についてコメント頂いた。

STBJ より、G20 保健重点や UNHLMTB 開催などに鑑み、TB をキーワードとしてハイライトしてほしい旨、発言をした。

→ GHITプレッジについては、財務省とも協議ししっかり対応することが約束された。

G7保健分野の政治宣言については、AMRの文脈で結核を記載することが、武見会長により外務省へ指示された。

→ 手交(調整中)

Connect2023: Asia and the Pacific TB Summit

主催：世界結核議連(GTBC)

参加：アジア太平洋地域の国会議員、インド厚労省(G20 インドシェルパ)、WHO、GF、STBP、IAVI など

目的：結核終息、UNHLM-TB に向けて国会議員の役割強化、アカウントビリティの確認

(UNHLM-TB、G20、APFPGH などの世界的・地域的フォーラムで結核が上位に位置するよう、国会議員の政治的資本を活用するための支援を強化する)

将来に起こりうる新たなパンデミックが、アジア太平洋地域での結核に与える影響の軽減。

日程：2023年3月21日～23日

場所：インド + バーチャル

※日本は、武見敬三ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟会長に以下のセッションにビデオメッセージをお寄せいただいた（録画 3/20）

Connect: Discussions to ensure stronger political will to End TB

3月22日 14:30～15:30（日本時間:18:00～19:00）

メッセージ内容：日本の結核低蔓延化に果たした政治的リーダーシップ、日本のグローバルヘルスへの貢献など。【資料 2-3】

※宣言文書へのインプット(STBJ) 結核と AMR 関係、結核と PPR と UHC との相互補完性

世界結核デー

Twitter 動画投稿

STBP キャンペーン参加



ストップ結核パートナーシップ関西 第10回ワークショップ

2023年3月25日(土) 14:00～16:00/ Zoomを使ったWeb配信セミナー

「低蔓延国であり続けるために市民とともに学ぶ」

第一部 市民と創る結核対策(社会との協働)に向けて

第二部 大阪の結核の保健医療体制、医科学研究体制と今後について展望する

関西大学社会安全学部 学生さんの参加など、